

地方創生への 対応と戦略は？

町長

大山の恵みを生かす



吉原 美智恵 議員



未来はみんなの手に

【吉原】総合戦略は、平成31年度までのものを策定することになっている。推進体制と住民参画の機会を。【町長】創生本部を設置し、多くの町民の意見をとり入れるよう、住民説明会を開く。【吉原】今「大山未来会議」と「地域自主組織」の活動が始まっているが、戦略にどう生かすのか。【町長】それぞれの意見を聞き、参考にしたい。【吉原】戦略は、大山町らしさを大いにア

ピールすべきと考えるが、町の実情をふまえた方向性は。【町長】日本海から大山までの恵みを生かすことを重要なテーマとして進める。【吉原】歴史的建造物と大山寺開創1300年をからめた観光や農林水産業の課題解決にむけた戦略を、町民とともに創生事業として実践していくよい機会として進めてはどうか。【町長】まさに、それらの恵みを生かして取り組む。

カーブス誘致と検証は？

町長

産官学の連携で進めた



岩井 美保子 議員



カーブス進出予定地（Aコープ名和 隣）

【岩井】平成25年9月議会で、カーブスの誘致を求めた時の町長答弁は、「採算性に対する責任や公平性の観点から、ほかの企業も含めた公募も考える必要がある。現段階では慎重な対応にならざるをえない。」であった。今回誘致できた経緯と答弁の検証は。【町長】地域おこし協力隊員と未来づくり戦略室の職員が、本町の医療費が県内でも高位にあることをふまえ、

その対応を含め企業誘致に係る情報収集の二環として、カーブスジャパンを訪問した。本町の人口規模では進出の検討対象とならないものの、「自治体と協働し健康づくり事業が展開できる形であれば、過疎地・郡部での日本初の先導的な事業モデルとして進出の可能性はなくはない」との報告を受けた。健康対策を全町に広げ進めるため、必要性を感じ取り組んだ。